

幼児教育における WEB サイトの利用

林 知代*¹

<概要>

本研究では、身近な材料を使い、親子が共同でつくって、遊べる、「おもしろ紙おもちゃ」のつくり方を、動画コンテンツと、カメラ付き携帯電話を使った投稿システムを中心としたWEBサイトを制作し、幼児教育におけるWEBサイトの利用の可能性について検討したので報告する。

1. はじめに

家庭へのパソコンやインターネットの普及が進む中、幼児でも5割以上がパソコンを使っているという調査結果¹⁾も報告されてきており、マルチメディア環境やWEB環境は、幼児の日常生活においても、テレビやビデオと同様に、当たり前のように存在するツールとして認知されつつある。また、ハード面においてもタブレット端末やスマートフォンの発売により、より簡単な操作で、WEB環境を利用できるようになってきた。

そこで本研究では、マルチメディア環境やWEB環境を利用した、幼児の教育環境についての検討を目的として、身近な材料を使い、親子が共同でつくって、遊べる、「おもしろ紙おもちゃ」のつくり方を動画コンテンツと、カメラ付き携帯電話を使った投稿システム備えたWEBサイトを制作、公開し²⁾、その利用に状況から、WEBサイトを利用した幼児教育のモデルについて考察する。

2. 紙おもちゃづくりについて

「おもしろ紙おもちゃ」は、折り紙やストロー・紙皿、紙コップなどを、はさみで切ったり、折ったり、ペンで絵柄を描きいれたりして作る、手作りの紙のおもちゃであり、「水野政雄 心の森ミュージアム遊童館」館長の水野政雄氏がその生みの親である。

簡単にでき、動かして遊ぶことができるうえ、物理学的に素材の特性を考えて作られているおもちゃもあり、子供たちに発展的に考える機会を与え、工夫する楽しさを教えることができる。ここでは、親子で作って遊ぶことを前提にした紙おもちゃ作りのつくり方を紹介し、

幼児を対象とした、家庭におけるものづくり活動の誘発を目指したWEBサイトを提供する。

3. WEBサイトの構成

10種類の紙おもちゃの作り方を動画およびテキストファイルにて提供している。

まず、最初に完成写真と作品名の入ったメニューからつくりたい作品を決める。(図1)



図1 メニュー

個々の作品のページには、材料、遊び方、完成写真を提示しており(図2)、その作品の概要を知ることができる。作り方は10分~15分の動画で用意しており、基本的には、1度動画を見て、作りたい紙おもちゃかどうかを確認し、材料を用意して、今度は動画を見ながら先生と一緒に紙おもちゃを作成していくという流れになる。動画の最後には、遊び方の例も紹介している。この動画は、幼児対象とした親子教室での講師の指導をマルチアングルで撮影したものを編集したものであ

*1 HAYASHI, Tomoyo : 岐阜女子大学 e-mail= tomoyo@gijodai.ac.jp

る。(図3)また、動画の配信には YouTube を利用している。

その他に、写真と説明で構成したテキスト ファイルを提供している。

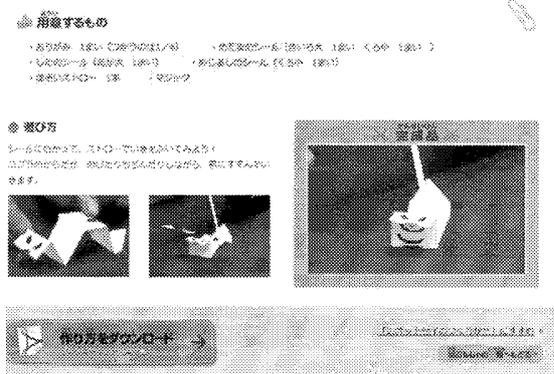


図2 作り方紹介ページ

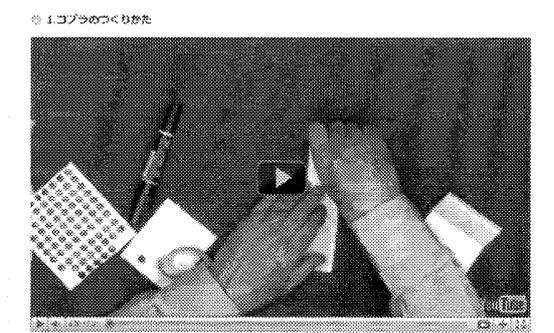


図3 動画ページ

4. 携帯投稿システム

携帯電話の写真付きメール機能を利用して、件名に名前(ニックネーム)、本文に作品名や感想などを記入し、作った紙おもちゃの写真1点添付して、指定のメールアドレスにメールを送ることによって、作った紙おもちゃの写真をPC用と携帯電話用のWEBサイトの「みんなの作品集」に投稿することができる。投稿完了後は、確認のメールとともに、携帯電話用サイトの案内をメール返信している。投稿者は、その場で自分の作品、また他の人の作品を見ることができる。

5. Webサイトの利用状況

Webサイトの利用状況は、YouTubeからのアクセスが多く、同種の折り紙を使った人気作品からの誘導によってアクセスされている場合が多い、また、作品によってアクセス数にばらつきがみられ、12月にはお正月の前に「紙皿コマ」へのアクセスが増えている。

YouTubeのようなメジャーな動画投稿サイトを利用することにより、WEBサイトへの誘導には成功した。しかし、携帯電話からの投稿システムの利用は、全くみられず、ただWEBサイトを提供しているだけでは、次のアクションを誘発するのは難しいという結果になった。

6. まとめ

幼児教育におけるWEBサイトの可能性として、従来ならば親と子の間で行う直接体験、もしくは幼稚園や保育園で行う直接体験として行われる物づくり体験活動を、図4に示したモデルのように、間接体験と直接体験を交え、WEBサイトを利用することにより、新しい工夫や交流の場を加えることができ、より広がり可能性を持った体験活動に増幅することができると考える。しかし、今回の実践では、実際の利用活動にまで結び付けることができなかったのが今後の課題としたい。

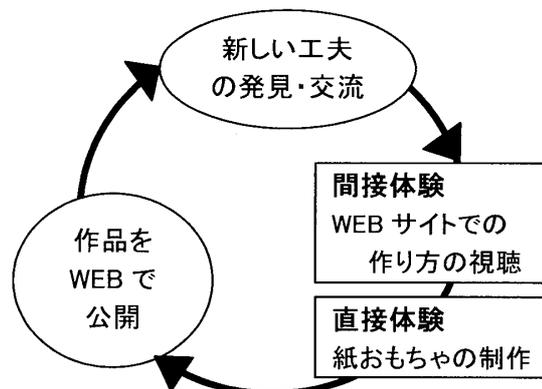


図4 WEBサイトを利用した幼児教育モデル

参考文献:

- 1) 日経パソコンオンライン 2007年8月7日
<http://pc.nikkeibp.co.jp/article/NPC/20070731/278639/>
- 2) おもしろ紙おもちゃ作り教室 WEBサイト
<http://omocha.npo-nak.com/>

謝辞:

この活動は、平成22年度 子ども夢基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の助成を受け、特定非営利活動法人日本アーカイブ協会の主催、岐阜女子大学、沖縄女子短期大学、北海道立常呂少年自然の家の協力によって行われました。水野政雄先生はじめ、関係の皆様、に感謝の意を表します。